

医療史

現代の医療と日本人の健康

第7回

診療情報管理士テキスト

診療情報管理 I も参考のこと

現代の医療(1)

- 細分化、専門性の特化:内科、外科医系の文化
- 内科:循環器科、消化器科、呼吸器科、さらに肝臓、食道、胃、手、足などに分化
- 技術主体の専門医:内視鏡、放射線診断、超音波診断など
- 局所的な専門医療の進展

現代の医療(2)

- 病気を診るが、病人を見ないとの批判
- 総合診療医の必要性
- 治る病気
(感染症など)
↓
治らない病気
(生活習慣病:高血圧、糖尿病など)
- 患者の自己決定権の尊重

現代の医療(3)

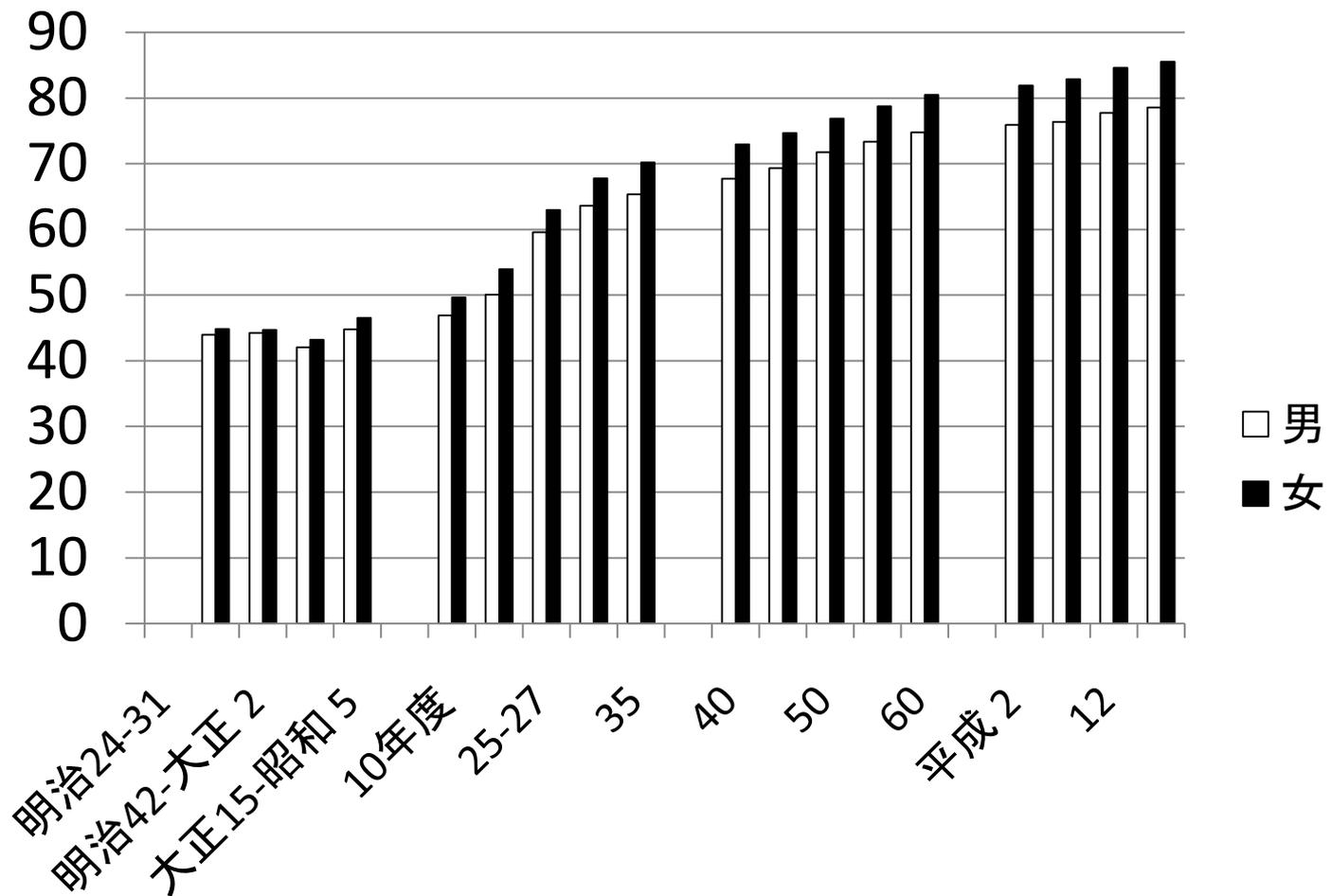
- チーム医療の進展: 各科医師、看護師、コメディカルが患者を中心に医療チーム:
 - 情報の共有と開示が不可欠
- 問題指向型の診療録
 - SOAP
 - S: 主観的な訴え
 - O: 客観的事実
 - A: 医師の判断、評価
 - P: 方針(検査、治療、教育)

現代の医療(4)

- EBM: 根拠に基づく医療
 - RCT: ランダム化比較試験(治療法を比較する際に、割りつける患者を無作為に選んで比較)
 - メタアナリシス: 複数の結果をまとめて解析

第2次世界大戦後の 日本の健康指標

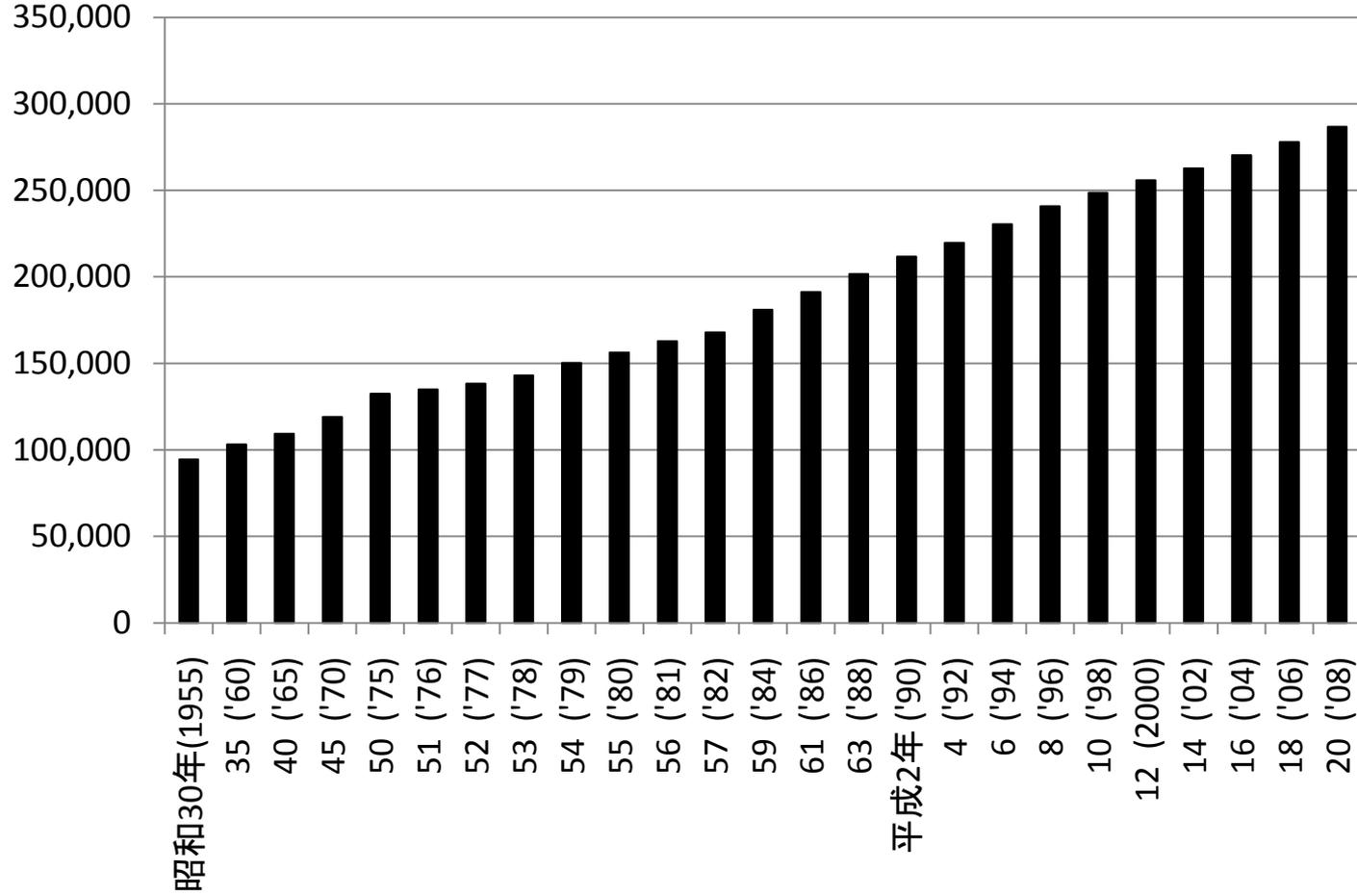
日本の平均寿命の伸び(生命表)



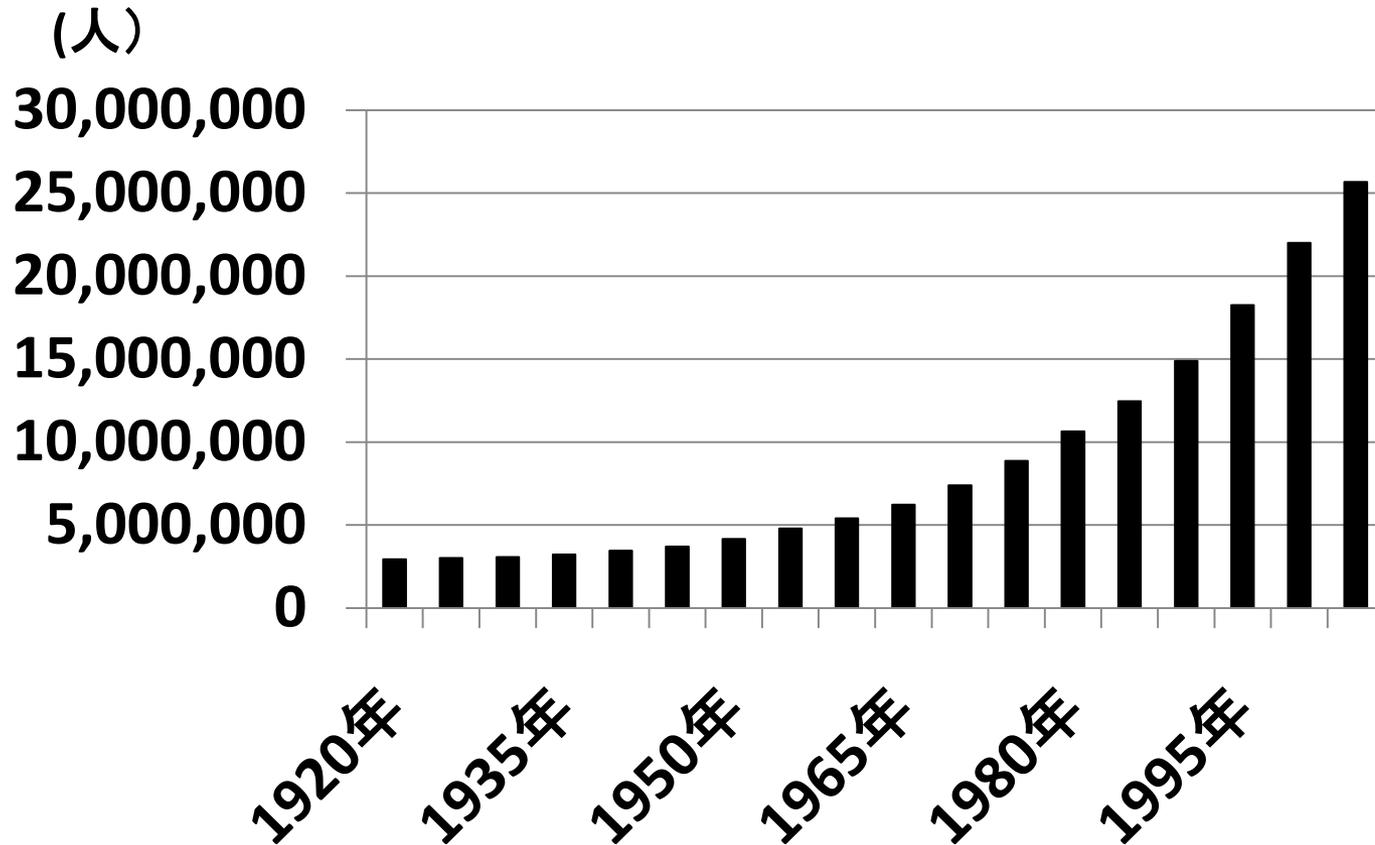
医療資格を有する人数(平成18年)

- 医師:277,927人
- 歯科医師:97,198人
- 薬剤師:252,533人
- 看護師:811,972人
- 准看護師:382,149人
- 診療放射線技師:43,790人
- 臨床検査技師:57,265人
- 理学療法士:35,857人
- 作業療法士:20,515人

医師数の変遷



65歳以上人口の推移



高齢者人口と医師数

65歳以上	国勢調査		医師1人あたりの 65歳以上人口
	65歳以上人口	医師数	
1955(昭和30)年	4,786,199	94,563	50.6
1960(昭和35)年	5,397,980	103,131	52.3
1965(昭和40)年	6,235,614	109,369	57.0
1970(昭和45)年	7,393,292	118,990	62.1
1975(昭和50)年	8,865,429	132,479	66.9
1980(昭和55)年	10,647,356	156,235	68.1
1985(昭和60)年	12,468,343	181,101	68.8
1990(平成2)年	14,894,595	211,797	70.3
1995(平成7)年	18,260,822	230,519	79.2
2000(平成12)年	22,005,152	255,792	86.0
2005(平成17)年	25,672,005	270,371	95.0

65歳以上年齢の受療率の年次推移

(/10万)

